

【闇と黒い神】

黒い男の特徴は反キリスト教的であるため、反伝統的な存在であり、既成の価値観を覆そうとする異端的存在である。キリスト教は「白い神」を戴くが、「黒い神」は主として異教のパン神（ギリシア・ローマ神話に登場する牧羊神）と関連させて書かれているが、またその他の異教の神話であるエジプト神話やケルト神話等に関連して書かれている。

『恋する女たち』（1920）においては、「白い」女性の支配から逃れ、彼女との関係を断ち切って女性との新しい関係を築こうとするパーキンという名前の男性が登場しているが、彼は恋人アーシュラと「究極の性愛」を体験して、アーシュラは彼の説く「星の均衡」という関係を徐々に理解していく。そして二人は「善なる闇」を知るのである。パーキンは「黒い」男として描かれ、アーシュラは「白い」世界から彼によって救い出されたのである。『チャタレー卿夫人の恋人』（1928）においては、再び「黒い」男として身分が労働者階級の森番メラーズが登場して、コニーという貴族の令夫人を性愛を介して救い出す。

ロレンスはキリスト教会と戦い続けてきたのであり、彼の「黒い神」は、その思想を表わす中核となる用語なのである。また、ロレンスは男と女の対立を描いているが、最終的には両者の均衡を望んでいるのである。彼のキリスト教への反発は既成の価値観への反発であり、彼は新しい社会を求めるとあって、文筆活動によって徹底的に古い社会と戦ったのである。彼は44歳という若さで亡くなったために、世界中に影響を及ぼしてきた名作『チャタレー卿夫人の恋人』がイギリスで裁判に勝訴した（1960年）ことも知らないままであった。しかし彼の戦いは勝利となり、『チャタレー卿夫人の恋人』は現在世界中で完全版を読めるようになっていく。

現在自然を大切にしようという運動が広がっている。ロレンスは「光」を善と考えることによって文明を行き過ぎたものにまで進めている人間の思い上がりを憤り、植物や動物を人間と対等に扱っ

て書こうとした。このような自然の意味を備えた彼の作品の思想である「闇」と「黒い神」は、今後も世界にとって重要なものであると思われる。

注：本稿は、2008年度春学期に筆者が担当した科目「総合演習」の講義ノートの一部に加筆したものである。

中国のスヌーピー

現代中国学部
藤森 猛

中国のアニメブーム

中国の青少年の間では、1990年代から外国のアニメーションブームが起こり、映画・テレビやコミック本などの作品では日本アニメの人氣が最も高い。例えば、小学生では『柯南』（名探偵コナン）、『蠟筆小新』（クレヨンしんちゃん）、『櫻桃小丸子』（ちびまる子ちゃん）などのテレビアニメに代表され、中学生以上では『隣居豆豆龍』（となりのトトロ）、『幽霊公主』（もののけ姫）、『千與千尋』（千と千尋の神隠し）などの宮崎駿作品や『新世紀福音戦士』（新世紀エヴァンゲリオン）に代表されるSFアニメ作品などが、アニメブームの火付け役となっている。

また中国では、アメリカのアニメ作品も日本アニメに次いで人氣が高い。一つには、「米老鼠」（ミッキーマウス）や『白雪公主』（白雪姫）、『美女與野獸』（美女と野獸）、『小美人魚』（リトルマーメイド）などのヒロインものに代表される“迪斯尼”（ディズニー）作品であり、一つには“史努

比” (スヌーピー) に代表されるピーナツブックスである。

スヌーピー人気

『史努比漫画經典系列』(ピーナツブックス)は、1922年生まれの“査爾斯M・舒爾茨”(Charles M. Schulz)が、1950年から掲載を始めた新聞漫画作品で、アメリカでの大ヒットを経て各国に伝わり、日本でも詩人の谷川俊太郎の名訳で70年代からブームが続いている。

中国では、WTO加盟(2001年)に先立つ99年の米中交渉で、中国がハリウッド映画に対する輸入自由化(当初は年間40本)を認めたことに伴い、90年代末からディズニー作品などの映画やコミックが大量に流入した。そうした中で、中国でもスヌーピーが人気のキャラクターアニメとして一人歩きを始めた。

ピーナツブックスは、“查理・布朗”(チャーリーブラウン)が主人公で、理髪店で働く父を持つ作者のシュルツが、自分自身を描いたとされる。登場人物は子どもと動物だけで、中でも人気キャラクターとして圧倒的な支持を得ているのは、チャーリーブラウンの飼い犬のスヌーピーと相棒の小鳥“糊涂場客”(ウッドストック)である。またチャーリーブラウンの友達“露茜”(ルーシー)、ルーシーの弟“莱納斯”(ライナス)、チャーリーブラウンの妹“莎莉”(サリー)などのキャラクターも人気が高い。他にもチャーリーブラウンの友達の“史洛德”(シュレーダー)、“薄荷・派蒂”(ペパーミント・パティ)、“瑪茜”(マーシー)などたくさんの登場人物がキャラクター化して、衣類、玩具、文具、ファンシー用品、食品などのグッズに登場している。80年代~90年代前半に中国の町を歩いた時には、スヌーピーの“T恤衫”(Tシャツ)をみかけることはなかったが、最近では、例えば背広を着たサラリーマンをみると、そのワイシャツの下からスヌーピーのTシャツの絵が透けて見えるようなケースに遭遇する場合がある。

言葉の宝庫ピーナツ

スヌーピーの漫画は、いくつかの出版社から中

国語に訳されているが、ここでは『史努比，你家失火了』(Your House On Fire!! Snoopy) (許時嘉訳、双大出版公司、2003年)を例に、ピーナツブックスで使われる代表的な擬声語の中国語訳を紹介する(日本語訳は谷川俊太郎訳『おうちが火事だ!! スヌーピー』ツル・コミック社、1971年を参照)。

作品では、子どもたちが野球をするシーンが多い。例えばチャーリーブラウンがバットでボールを打った「カーン(Whap)」という音は“啞啞kuānglāng”、ピッチャーのチャーリーブラウンに打者の打球がぶつかる「カーン(POW)」という音は“砰pēng”、スヌーピーがボールを口でキャッチした「パクッ(CLOMP)」という音は“噗咚pūdōng”、スヌーピーが口でくわえたボールをチャーリーブラウンにパスする音「ブイ(Ptui)」は“噗pū”と訳される。

またこの“噗咚”という中国語の音訳は、ピーナツブックスで多用される擬声語の一つとなっている。例えばウッドストックが空を飛ぶ「パタパタ(Flitter Flutter)」という音は“啞哩啞啦pālípālā”であるが、ウッドストックが地面に墜落する「ゴツーン(KLUNK)」という音は“噗咚”で訳されることが多い。

中国産の“史努比”(スヌーピー)のTシャツを着て、中国語版のスヌーピーのアニメを見て、スヌーピーのコミックを中国語で読む。語学の楽しい会話練習のために、みなさんに勧めたいと思います。



中国語に翻訳されたスヌーピーのコミック本